

潜水士試験ノート --- 「別表(1), (2)」 (あるいは「別表A, B」) を使う2問の解き方  
(Copyright (c) 2006 Orang Kucing)

注意: \*\*\*\* → @@@@ という記法で、「\*\*\*\*ということをつかって@@@@とする」を表すことにします。

最近の試験では別表(1), (2)ではなく、別表A, Bを使って解けという表現になっているようですが、それぞれ別表(1), (2)と全く同じ表ですので、区別しないで説明します。

【1問目】 [2通りのパターンの問題があるが、パターン2はパターン1に直して解く]

--- まず、問題文を整理しよう ---

1回目 X m

2回目 Y m

パターン1) 1回目の潜水時間 a 分でその後 b 分、安静にした (休憩した)

パターン2) 1回目の潜水時間 a 分 (安静にした時間の記述が問題文に無い)

→ 2回目の潜水可能時間 (潜水時間の限度) は何分?

--- では、解いてみよう ---

パターン1の場合:

「潜水深度」X m と「潜水時間」a 分 → 別表(1)で「体内ガス圧係数」を読む

パターン2の場合:

「潜水深度」X m と「潜水時間」a 分 → 別表(1)で「体内ガス圧係数」と「業務間ガス圧減少時間」を読む  
そして、

b (分) = いま読み取った業務間ガス圧減少時間 (分)

とし、残りの解き方はパターン1と同じ。

以下は、パターン1、2共通:

(ガス圧減少時間④) b 分 と、さきほど別表(1)から読み取った体内ガス圧係数②

→ 別表(2)でこの2点を直線で結び、縦線③との交点に印をつける (\*)

(当該潜水業務の水深①) Y m と、(\*)で印をつけた点

→ 別表(2)でこの2点を直線で結び、縦線⑤との交点の値 (潜水作業修正時間) を読む ◎

「潜水深度」Y m

→ 別表(1)で、一番長い「潜水時間」(この欄の一番右下に書いてある時間)を読む

いま、読み取った潜水時間 (分) から (◎で読み取った) 潜水作業修正時間 (分) を引いた時間を☆ (分) とする。

「潜水深度」X m

→ 別表(1)で「一日についての潜水時間」を読む (\*\*)

「潜水深度」Y m

→ 別表(1)で「一日についての潜水時間」を読む (\*\*\*)

2回の潜水時間の合計 a + ☆ (分) が(\*\*)と(\*\*\*)のどちらも超えないときは☆ (分) を答とする (超えるときは、(\*\*)と(\*\*\*)のうちの小さい方から1回目の潜水時間 a 分を引いたものを答とする)。

注意: ◎では縦線⑤の潜水作業修正時間を分の単位まで読み取るわけですが、この縦線には目盛りがまばらにしかなく、また、作図も不正確になりがちなので、数分程度の誤差は気にする必要はありません。答は選択式ですから、近い値が選べれば正解です。

【2問目】 [2通りのパターンの問題があるが、パターン2はパターン1に直して解く]

--- まず、問題文を整理しよう ---

パターン1) 2回目 c 分

パターン2) 2回目 限度いっぱい

→ 浮上停止の位置 (水深) と停止時間は? (まれに、「浮上直後の体内ガス圧係数は?」と出題されることもある)

--- では、解いてみよう ---

(パターン2のときは、

c (分) = 1問目の答の潜水時間 (分)

として、残りの解き方はパターン1と同じ。)

以下は、パターン1、2共通:

別表(1)で

「潜水深度」Y m

c (分) に1問目の (解の途中の◎で読み取った) 潜水作業修正時間 (分) をたした「潜水時間」

のところを見る。答は、「浮上」の欄に書かれている浮上停止の水深 (m) と停止時間 (分) である (浮上直後の体内ガス圧係数が問われているときは「体内ガス圧係数」の欄に書かれている数が答え)。